

公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

千葉県袖ヶ浦市消防団

1 はじめに

袖ヶ浦市は、千葉県の中西部に位置し、東京都心部からは約40kmの距離にあり、羽を拡げた蝶のような形をしています。東部は市原市、西部は木更津市に接し、東京湾に面した北部の埋立地は鋸の歯のような形状で、面積は94.92平方キロメートル、人口は61,559人です。(平成23年11月1日現在)

本市は、平成3年4月1日、全国で656番目、県下で29番目に市制を施行し、君津郡袖ヶ浦町(きみつぐんそでがうらまち)から現在の袖ヶ浦市(そでがうらし)になりました。



袖ヶ浦市の位置

主な産業は内陸部における酪農と稲作、レタスやトマトなどの施設園芸、里芋、大根、落花生などを栽培する生産性の高い都市型農業と京葉コンビナートの一翼を担う臨海部の工業地域であり、商業に比較して農業と工業に特化した産業構造が特徴です。

臨海部は、かつて海苔養殖が盛んでしたが、昭和40年代から工業地帯が形成され、ここから電気、ガス、石油などの膨大なエネルギーが首都圏へと送られています。

臨海工業地帯の造成を契機として、土地区画整理事業により宅地が形成され、その後、東京湾アクアラインや東関東自動車道館山線が開通し、圏央道も一部供用開始されるなど、交通結節点としての利便性が飛躍的に高まり、今後益々発展が期待されているところです。

2 袖ヶ浦市消防団の沿革

昭和46年に旧袖ヶ浦町と平川町の合併により袖ヶ浦町が誕生し、団員数720名で袖ヶ浦町消防団が発足しました。

発足直後から分団の統合と団員数については調整を図っており、平成3年4月1日の市制施行に伴い袖ヶ浦市消防団に改まり、平成23年

4月1日現在は、定数を467名以内とし、19団、団員数456名となりました。

袖ヶ浦市消防団は、地域の防災活動はもとより消防操法技術にも長け、千葉県消防操法大会での最優秀賞受賞や全国大会への出場を幾度も果たしております。

昭和52年3月には消防庁長官表彰旗を、昭和62年2月には日本消防協会竿頭綬を、平成7年2月には日本消防協会最高栄誉賞特別表彰「まとい」を受賞いたしました。

また袖ヶ浦市消防団は、平成12年11月1日に女性消防団員の採用を開始しました。当初7名で発足した女性部は現在18名にまで増員し、火災予防などの広報活動や一般市民を対象とした応急手当の普及などに活躍しております。

更に平成20年4月1日には機能別消防団員制度を導入し、災害現場で不足する消防力を補完するためOB団員の再任用を行い、40名が地域に密着した防災活動を行っております。

3 安全管理セミナーを実施した経過

袖ヶ浦市消防団では、会議や諸行事の機会を

捉え、日頃の訓練や災害現場での公務災害防止に注意を呼びかけており、幸いここ数年間公務災害は発生しておりませんでした。

しかし、消防の活動現場は社会情勢の変化と共に複雑多様化の一途をたどり、地震や風水害の発生が懸念される今日、いかにして団員の安全を確保するかは課題の一つとして取り上げられているところでした。

そのような折り、千葉県消防協会君津支部が主催する平成22年度上級幹部研修会で、本市消防団の幹部が安全管理セミナーを受講する機会に恵まれました。受講した幹部団員からは、その有効生についての報告と本市での開催についての強い要望があり、本市消防団員全員を対象に安全管理セミナーを開催することを計画いたしました。

4 安全管理セミナーを実施して

平成23年9月4日（日）消防基金S-KYT指導員の関根弘氏を講師としてお招きし、地元の公民館を会場として安全管理セミナーを実施したところ、女性団員を含む約100名の団員の参加



講師



受講者

を得ることが出来ました。

セミナーの内容は、全国の消防活動における公務災害の発生状況と推移、そして具体的な事故事例、事故の原因、予防策及び事故発生後の対応策などを分かりやすく解説され、受講者全員が真剣な眼差しで聞き入っておりました。

消防団員は、有事の際は率先して災害現場に出場し、そこには常に危険があることは誰でも知っているところです。しかし消防団員がさらされる危険とは、爆発や火災、あるいは洪水、がけ崩れ、倒壊などといった通常イメージされがちな事象にとどまることなく、日常の器具点検や、訓練にも想像以上の危険が潜んでおり、少しの油断が大きな事故に繋がりがねないことを、具体的な事故事例から理解することができました。

紹介された事故事例は、消防団員であれば誰にでも起こり得る事象であり、今までは気にも止めなかったような事柄が、今後消防活動をする時に自ら注意喚起をすべき事柄に変わったこ

とと確信しています。

5 今後の取り組みについて

今回のセミナーを受講して、団員が一様に感じたことは、公務災害について非常に分かりやすく解説していただき、セミナーに参加できて良かったということです。

私達消防団員にとって公務災害が考えていた以上に身近に起こりうるものであることを知ると同時に、S-KYT（消防団危険予知訓練）が欠かすことのできない重要なことであることも知りました。

今回参加できなかった団員に対しては、セミナーで使用したテキストを使用するなどして、災害現場は本より日常に潜む危険と安全管理について教示するとともに、S-KYTの導入を進めてまいりたいと思います。

袖ヶ浦市消防団はこれからも事故を起こさず、地域の防災と市民の安全・安心の一助となるよう努力する所存です。



講演風景



消防基金のポスター